



# とびっくす No.71

(本誌はホームページでもご覧いただけます。 <http://www2.pref.shimane.jp/suigi/> )

## マイワシ資源が回復傾向？

～平成 9 年以降で最高の漁獲量～

マイワシの漁獲量が最近増加傾向に！

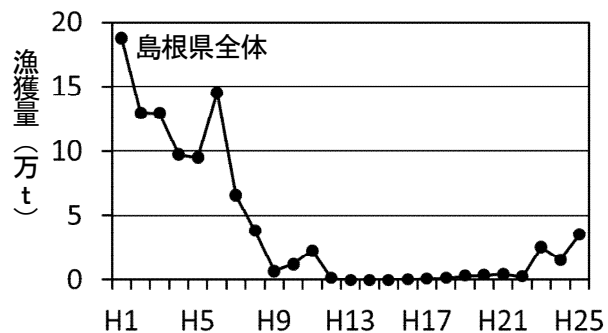


図1 マイワシ漁獲量 (中型まき網属人) の推移

島根県のマイワシ漁獲量は約 90%がまき網漁業によるものであり、そのほとんどが境港に水揚げされています。平成初期は 1 日当たり最大数千トンレベルで漁獲されており、まき網漁業の主要な漁獲物となっていました。平成 7 年を境に漁獲量が激減し、平成 22 年までは年間でも数十から数千トン程度となっていました。

しかし、平成 23 年は 2 万 5 千トン、平成 24 年も 1 万 6 千トンと復調の兆しを見せ、平成 25 年は平成 9 年以降で最高となる 3 万 5 千トンとなりました (図 1)。境港では春と秋の漁獲量が多く、時には 1 日 1 隻当たり最大 200 トン以上も漁獲され、大漁旗も立つほどの盛況ぶりだったとの事です。

### 中型まき網漁業のマイワシ漁獲動向

中型まき網のマイワシ漁期は春漁と秋漁があり、近年における年間漁獲量の大半は春漁が占めています。しかし、平成 25 年は、春漁に加えて秋漁も好調であり、これが過去数十年で最大の漁獲量につながりました (図 2)。

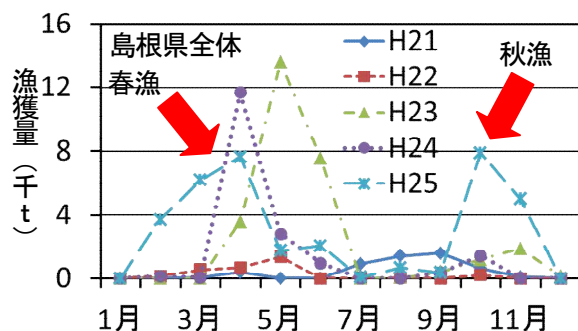


図2 月別マイワシ漁獲量 (中型まき網属人)

## 日本海側（境港）と太平洋側（銚子港）との漁獲量比較

マイワシは日本海側だけでなく、太平洋側でも多く漁獲されます。その漁期と漁獲量について、日本海側の主要漁港である鳥取県の境港と太平洋側の主要漁港である千葉県の銚子港の過去6年間における年間漁獲量を比較しました。

その結果、例外はあるものの、銚子港の漁獲量が多ければ、境港の漁獲量も多くなる傾向が見られました（図3）。また、近年の漁獲

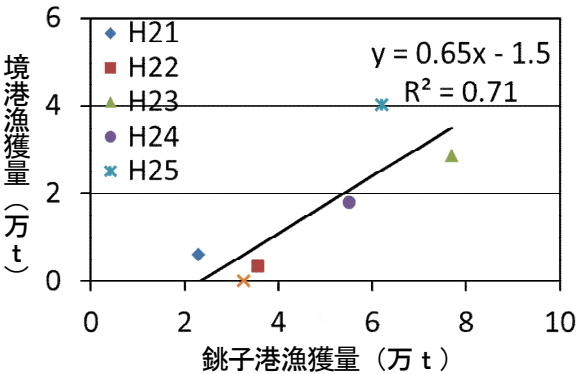


図3 境港と銚子港の漁獲量比較（属地）

量と比較すると、銚子港の漁獲開始時期が境港よりも2ヶ月程早く、漁期も長い傾向が見られました（図4）。

これらの結果から、太平洋側のマイワシ漁獲量の変動を見ることで、日本海側のマイワシ漁期を推測できる可能性が示唆されました。

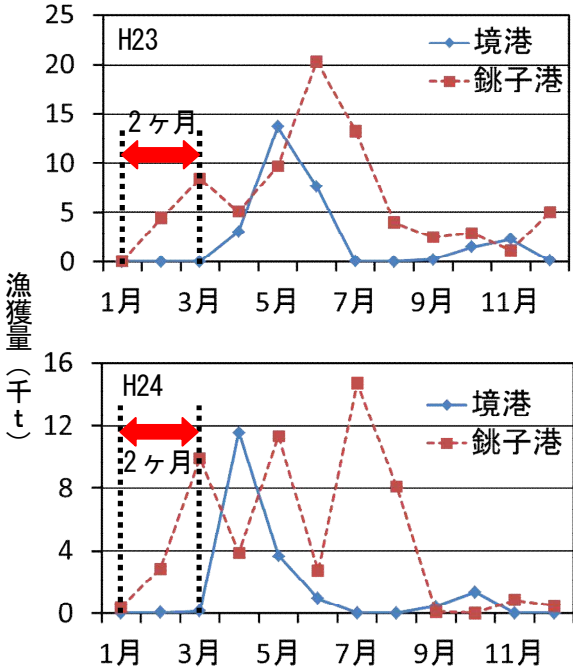


図4 境港と銚子港の年間漁獲量（属地）

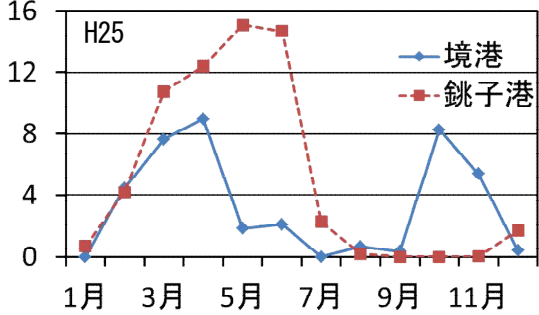
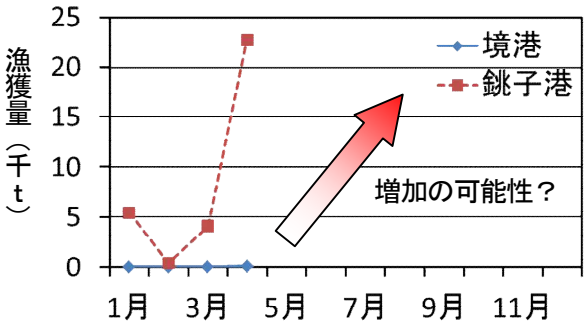


図5 H25の境港と銚子港の漁獲量動向（属地）

## 今年の境港における漁獲量は？

今年の境港におけるマイワシ漁獲量は、4月時点ではほとんどありません。しかし、銚子港では3月頃から漁獲が増加しており、これから境港の漁獲量が増えていく可能性が考えられます（図5）。

近年のマイワシ漁獲量は増減を繰り返しながらも上昇傾向にあります。好調だった昨年には届かない可能性もありますが、十分な漁獲量が見込まれるため、今後の動向が期待されるようです。



島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1  
 担当者: 森脇和也、沖野晃  
 TEL: (0855)22-1720 FAX: (0855)23-2079  
 ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>  
 E-mail: [suigi@pref.shimane.lg.jp](mailto:suigi@pref.shimane.lg.jp)